

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価（3月24日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒が自ら学び自ら考える姿勢を育成するために基礎学力を充実させ確かな学力の定着を図る。 ②学科併置の特色を活かした学びの楽しさを実感きる学習活動の一層の展開を目指す。	①基礎学力の定着を目指す学習内容の精選、方法の確立をめざす。 ②学科併置の特色を活かしたハイブリッドなカリキュラムの構成を目指す。	① 基礎学力の定着を目指す学習内容の精選を目指した教材研究を進める。 ②学科併置の特色を活かした教育活動を教科・領域にわたって展開することを目指す。	①生徒による授業評価で生徒が各観点でどのように評価したのか。 ②学科併置の特色を活かした教育活動が教科・領域において展開できたか。	①各講座において基礎学力の定着を目指す学習内容が精選され、工夫された教材が提供された。多くの生徒が授業評価において授業内容を高く評価している。 ②学科併置の特色を活かした教育活動を多くの講座で展開できた。	①基礎学力の定着を目指すために、どのように生徒の状況を分析するのか、その分析方法をどのように共有していくのが課題。改善方法は授業研究会の開催などが考えられる。 ②学科併置の特色を各講座及び領域で展開し続けながら、どのように学校文化を形成していくのが課題。改善方策としては地道な実践の継続が考えられる。	①基礎学力の定着に関しては見通しがたってきた。資料から数的な評価はできるが、生徒の声を聞いた質の評価も大切にしたい。授業改善の研究会を開催してもらいたい。 ②3年生の授業では、都市農業科と普通科の生徒と一緒に食品を作る授業が実施されている。都市農業科と普通科の学びに関してはこれからも検討を継続してもらいたい。	①生徒自身の基礎学力が形成されつつあると受け止めているところが成果。課題としては学習した内容を活用したり探究したりする力を育成することである。 ②学科併置の特色を継続して実践できたことが成果である。課題は、都市農業科と普通科の併置校である特色を活かした学びに関して検討を継続する。	①授業づくりに向けての教材研究時間の確保。同時に、多くの授業実践に触れる機会をつくる。 ②学科併置の特色を粘り強くすすめていくことで三浦初声独自の学校文化が形成される。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①社会生活で必要となる社会的資質や行動力を高めることができるよう指導と援助を行う。 ②幅広い教育活動の機会を活用し、企画・運営に関わることを通して主体性や課題解決能力、またコミュニケーション能力及び自己有用感の育成を図る。	①問題行動未然防止と適切な集団指導と個別指導の充実、規範意識の醸成を図る。 ②生徒が積極的に行事の企画・運営などに関わることを通して、主体性、課題解決能力、コミュニケーション能力及び自己有用感を向上させる。	①問題行動未然防止と問題行動発生時の対応、規範意識の醸成を図る。 ②生徒が主体的に行事の企画や準備、運営に携わる機会を増やせるよう指導・支援体制を構築する。	①ホームルームや集会等の声掛けや、問題行動発生時に個に応じた指導の充実を図る。 ②行事への参加を通した主体性、企画力、行動力、充実感、自己有用感の向上を、アンケートなどで確認できたか。	①問題発生時は、職員協力体制で速やかに対応した。集団の指導と個に応じた面談を実施したことで、全体が安定した学校生活を過ごせるようになった。 ②昨年度までの「特別委員」を体育祭・文化祭・球技大会の3つの実行委員に分けたことで、業務量が分散し、仕事内容もシンプルになり、生徒は積極的に仕事に携われるようになった。生徒アンケートでは「達成感・充実感があった」という内容の回答が90%を超えた。	①問題行動未然防止に向け規範意識のさらなる向上を図るため、継続的に個別の声掛けを行い、保護者の協力を得ながら指導を行う。 ②文化祭・体育祭において、教職員への分担表の早期提示、仕事内容の周知徹底が不十分であった。教職員アンケートをもとに、各行事の情報提示の方法や内容、配置分担など、見通しをもってグループ内で丁寧かつ迅速に協議を進める。	①制服着用指導は、改善策を検討しながら、継続的に行っていく。集団での指導もだが、個の指導も大切になってきており、保護者の協力、理解を求め、家庭と学校が一致した考えで生徒を指導してほしい。 ②生徒の充実感や達成感などが高まっている。行事を教職員全体で業務分担を理解し、生徒支援に対応できるスケジュールをたてて行っていたきたい。各行事の際の保護者・地域の方々への開放方法の変更について、安全等に十分に配慮しながら検討していただきたい。	①個の指導の充実と保護者との連携により問題行動は徐々に減少しているが、全体の規範意識の向上に向けた指導や支援が課題である。 ②体育祭・文化祭・球技大会の実行委員が、仕事の内容を理解し、主体的に動けるようになった。それに合わせて一般生徒も行事に前向きに取り組む姿勢が増えた。各行事に関する教員への情報伝達を迅速かつ丁寧に行うことで、さらによりよい行事運営が行えると考える。	①引き続き、問題行動への速やかな対応と粘り強い指導、HR や個別面談、校内研修で生徒理解と支援や保護者や地域との連携を行う。 ②グループ内での打ち合わせを密に行い、各行事のスケジュールの管理を徹底する。また、夏季休業明けに予定している新たな生徒会行事を、生徒会執行部と丁寧に進めていく。

	視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価（3月24日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①高校3年間の生活を通して、自分の特性を理解し自分を活かす進路に生徒自らが積極的に行動できるよう適性検査やキャリアパスポートを利用しながら、進路指導の充実を図る。また、高校卒業後の未来の自分をイメージして社会や仕事に対する視野を広げ、第一志望の進路実現を目指せるようにする。	①各年次で実施している進路に関する行事等について、3年間を通したプログラム構成の構築の充実と高い完成度が図れるように計画及び実施する。	①進路支援グループが主体的に実施する行事等について、各プログラム終了後に教員や生徒向けのアンケートを実施し、内容の充実に向け検討する。	①進路プログラム終了後のアンケート結果に基づき、内容の評価を行うことができたか。また、次年度の実施に向けての判断ができたか。	①各年次ともに進路に関する行事を数回ずつ実施することができた中、振り返りについて毎回アンケートを実施できなかった現状がある。特に、3年次に向けてのアンケート実施ができなかった事が挙げられる。	①全ての年次に対して、進路行事への充実を図るため、更なるアンケート内容の充実を図り、3年間を見据えた進路指導を行う礎を築きたい。また、進路行事の適正を判断する指標の作成も必要である。	①アンケート内容の充実に加え、結果を検討し進路指導の礎を構築してもらいたい。進路行事の適正を判断、精査するように検討していただきたい。	年次毎に決定していた、「第一志望の進路実現」を目指した3年間の進路指導や講演会等について、統一した方向性である程度策定することができた。しかし、3年間かけて行っている内容でも、進路未定で卒業していく生徒が多数見受けられるので、改善策を見いだせるように方策を考える。	なぜ、進路未定者が多数いるのか、原因究明ができるような調査等を検討し、生かせるように実施する。
4	地域等との協働	①地域とのかかわりを持ちながら積極的に貢献活動を行い、HP等での情報発信を充実させ、生徒の活動の場を広げる。 ②地域の教育力を活かした取り組みを実施する。	①HP等を活用した情報発信を通して、本校の活動を広くアピールする。 ②地域連携活動としての「産農人」「依託実習」「農業体験」を発展させ、引き続き充実させる。	①学校のInstagram等を活用し、より広い範囲に生徒の活動などの情報発信を行う。 ②地域産業や企業と連携した活動が実施できたか。	①地域との交流や学校生活等の情報発信を充実することができたか。 ②地域産業や企業と連携した活動が実施できたか。	①HPやInstagramなどで学校の情報を発信することができた。授業公開週間を設定し保護者に学校の日常を見学できる機会を設けた。 ②どら焼きやパンなど、地元企業と共同で開発した商品を、収穫祭で販売することができた。地元農家と6次産業化に関するプロジェクト実現のため、いくつかの商品を試作することができた。	①今後もHPやInstagramなどで情報発信を充実していく。来年度以降も授業公開週間を行う。 ②6次産業化に関するプロジェクトについて、継続的に行っていく体制作りと実現可能な商品であるかを検討する。	①情報発信は、年間を通してできるように、教職員も楽しみながら発信できるようにしてほしい。 ②産農人プロジェクトに関して、生徒が自主的に行うことができていく。地域ブランドを掲げて行きたい。初声小学校に対しての体験学習の授業は、食育教育として、有益なものであった。	①保護者に授業公開をするなど新しい情報発信を行ったが、HPなどの更新頻度や更新の手法について改善の余地がある。 ②「産農人」や「農業体験」などこれまで取り組んできた事だけではなく、新たな事に取り組むことができた。これらを、今後も継続して活動していくことが課題である。	①現在の取り組みを引き続き行うとともに、デジタルでの情報発信について取り組みやすい方法を探る。 ②活動内容を周知してもらうためにPR活動を実施する。地元農家との6次産業化プロジェクトについては、話し合いや試作の作成を継続し、商品化を目指す。
5	学校管理 学校運営	①両キャンパスの環境や防災体制を整備し、生徒・教職員・学校利用者が健やかに活動できる安全安心な学校づくりをすすめる。 ②教職員のワークライフバランスを充実させ、心身ともに健康で、心にゆとりを持てるような働き方の改革をすすめる。	①多様な状況を想定した避難訓練を通し、両学科の防災に対する体制を確立する。 ②働きやすい環境づくり・業務の効率化を進め、教職員の在校時間を縮減し、心身ともに健康で安全・安心な働き方を追求する。	①三浦市と連携して、より実践的な避難訓練を実施し、生徒・教職員の防災体制の理解と防災意識の向上を図る。 ②負担軽減のための業務の精選、分担見直しを積極的に行う。月2回の定時退勤日を実施する。	①三浦市と連携して、避難訓練を実践できたか。教職員・生徒の防災体制の理解と防災意識が向上したか。 ②長時間勤務の職員が少なくなったか。職員の健康状態が向上したか。	①三浦市との連携による避難訓練はできなかったが、県総合防災センターが作成した動画から津波の危険性を学び、横須賀市や三浦市など自分が住む地域のハザードマップを確認することで、防災意識の向上へつなげることができた。 ②会計処理等、業務アシスタントの活用を充実させた。定時退勤日を毎月2回設定した。	①多様な状況を想定した避難訓練を実施し、生徒の防災に対する意識を高めるとともに、教職員の防災体制への理解も深めていく。 ②長時間勤務の職員には、産業医との面接を促し、効率よい働き方を模索した。教職員の疲弊感に対する職場環境を検討していく。	①防災訓練について、三浦市との連携だけでなく、外部の施設を活用したVRを用いた防災訓練や、耐震のバスを用いた体験活動等を検討してはどうか。 ②職員の疲弊感は、勤務時間に目を向けるだけでなく、若い教員の自己有用感を感じさせてほしい。	①両キャンパスで同時実施の避難訓練と、登下校時を想定した災害図上訓練「DIG」をそれぞれ実施することができた。生徒のみならず、教職員の防災体制への理解も深めていくために、さらに多様な状況を想定した避難訓練を検討していく。 ②働き方改革を考えた業務改善を行うことができた。教職員の意見をすいあげる方策を検討し実施していく。	①大規模地震による津波の想定だけでなく、風水害など様々な状況を想定し、それらに対応できるような防災訓練に引き続き取り組んでいく。 ②教職員の異動が多く、3年前に行ったアンケートを振り返り、現在の教職員の意識をすいあげるアンケートを検討する。